

JR東労組が、2018春闘に臨むにあたり、スト権行使を掲げて具体的な準備を進めつつも‘七転八倒’した挙げ句、3月16日には、自らが主張していた『格差ベア根絶』とは真逆の会社回答を受けながらも即日‘完敗’妥結したことについて、この間のJR連合「民主化闘争情報」でも明らかにしてきた。今後は、組合員の大量脱退と内部崩壊が進む中で、この間の組合員不在の運動を‘取り繕う’動きや、組織内部のJR革マルの生き残り、組織温存に向けた動きを最優先として‘策動’すると推測される。

一方で、JR東労組内の複数の地方本部（以下、「地本」という）が、中央本部に対して「臨時大会の開催」「新執行部の確立」を求めてきていたが、JR東労組は機関紙「緑の風 F A X 版 No.27 (23日付)」等で、突如、臨時大会を開催することを明らかにした。

いまや過半数に及ぶ組合員の大量脱退が進むJR東労組 4月12日「臨時大会」の開催を決定！

臨時大会は、都内「ホテルイースト 21 東京」にて開催されるようだ。ここでは、JR東労組のこの間のスト戦術をはじめとする運動の適否や、大量脱退による組織崩壊について、現・中央本部役員らの責任を問い失脚させる動き、および今後の組織・運動のあり方・進め方などが‘メイン議題’として扱われるのであろうと想定される。

全地本が、大会や中央委員会でスト戦術に賛同し進めたはずだが・・・

そもそも、スト戦術については、一昨年秋～冬に行われた全組合員一票投票や昨年2月の臨時大会における代議員投票で確立し、2018春闘に向けた中央委員会でも全地本が参加のもと、JR東労組の‘正式な取り組み’として機関決定されたものであったはず。今更、主導した役員のカビをすげ替え、新体制を確立したところで、あるいは突如、労使協調路線・スト戦術放棄路線に転じたところで、もはや会社や組合員、そして世の中からは信用など得られないであろう。いずれにせよ、どのような臨時大会となるか、大注目だ。

臨時大会では、目も当てられない責任追及と凄惨な内輪揉めで、更なる分裂か？！

JR東労組内では、主に3地本（東京・八王子・水戸）が、「会社・経営側が組織的に不当労働行為を行っている」と喧伝し、3月9日付で関係都県の労働委員会へ不当労働行為救済申立を行ったことは既報のとおりだが、ホームページでは連日のように気味の悪い「悪宣伝」が行なわれている。「職場討議資料」も作成され、連合や他産別等に対して配布・悪宣伝を展開しているようだ。また、一部国会議員に泣きついたのか、国会審議（3月23日厚生労働委員会）で唐突にある議員から「不当労働行為」に関する質疑がなされ、同日、中央本部がホームページで「中央闘争委員会情報 No.16」を掲載・宣伝している。

会社はJR東労組に対し、3月22日付であらためて事実を反する情宣物の撤去・削除や、誤りを訂正し周知するよう猛抗議（申入れ）をしたようだが、中央本部は馬耳東風のごとく無視するだけでなく、率先して悪宣伝を継続している。会社の提起した‘今後の労使関係の基礎となる6項目’の多くに従順な姿勢を見せるも、上辺だけの面従腹背か。先鋭化し蠢動する部隊を泳がせ、‘主導権の掌握’‘復権’の機会を伺っているかのようだ。

役員体制や‘見かけの運動’を変えても、根深い‘闇’は解消されない・・・